

○ ワークショップ「都市のOR」

開催責任者 数理情報学部 鈴木敦夫

2008年12月20、21日

南山大学名古屋キャンパス J101

ワークショップは2日間にわたり、「都市の諸問題をORで解決」のテーマのもと、参加者80名、以下のプログラムで開催された。

◇報告者及び題目

12月20日(土)

13:00-13:10 Opening Session

Masanori Fushimi (Nanzan University)

13:10-14:10 Session 1 座長：渡部 大輔 (東京海洋大学)

ネオ屋台設置によるにぎわい効果の計測

～筑波大学社会系実験を通して～

椎名 愛実 (筑波大学)

眺望点変更による景観分析

今 佐和子 (筑波大学)

国勢調査・来街者調査を用いた商店街活性化策の提案

廣川 貴久 (中央大学)

14:20-15:20 Session 2 座長：鈴木 勉 (筑波大学)

ブラジル人集住都市への提言

～水海道を主たる事例として～

畠野 真一 (筑波大学)

地方自治体間の施設サービス水準比較

—アウトプット指標からアウトカム指標へ—

淵田 隆臣 (筑波大学)

他者依存性を考慮した防災行動モデルの提案

—防災ブームは起こりうるか?—

廣井 悠 (東京大学)

15:35-17:05 Session 3 Chair: Masanori Fushimi (Nanzan University)

Cooperation in Transportation of Perishable Products

Li Jun (Southwest Jiaotong University)

Toward Semantic Urban Space: Ubiquitous Space Information Modeling and Applications

Choi Jin-Won (Yong-sei University)

17:20-18:00 Session 4 Chair: Atsuo Suzuki (Nanzan University)

Extension of the Kernel Density Estimation and Other Methods from Homogeneous Spaces to Networks
Kokichi Sugihara (University of Tokyo)

12月21日(日)

10:00-11:00 Session 5 Chair: Hidetoshi Miura (Meikai University)

Path Counting Methods and their Applications

Tatsuo Ohyama(National Graduate Institute For Policy Studies)

p-Concert Problem on a Network

Ken-ichi Tanaka (University of Electro-Communications)

Exploring Network Effects of Point-to-Point Network: An Investigation of the Spatial Entry Patterns of Southwest Airlines
Oum Tae-Hoon (Nanzan University)

11:15-12:15 Session 6 座長: 鳥海 重喜 (中央大学)

ロジットモデルを用いたリニア中央新幹線の需要予測
三浦 英俊 (明海大学)

利用頻度を考慮した商品普及の微分方程式モデル
鶴飼 孝盛 (南山大学)

ご当地キャラクターからみる地域ブランドに関する計量的考察

山田 真梨子 (筑波大学)

13:10-14:30 Session 7 座長: 小林 隆史 (筑波大学)

高次の直交距離を用いた施設配置の分析
宮川 雅至 (山梨大学)

将来人口の不確実性を考慮した施設の立地場所と立地タイミングの同時決定モデル

八木 恭子 (東京大学)

集団経路探索行動における情報共有の有効性に関する理論的研究

—経路障害発生時の誘導計画への応用を目指して—

田治 剛有 (京都大学)

14:50-16:00 Session 8 座長: 宮川 雅至 (山梨大学)

マルコフモデルを用いたパチスロ遊戯の停止問題
田中 祐介 (中央大学)

日本 OR 学会研究発表会プログラムの自動生成
鈴木 敦夫(南山大学)

東京 23 区におけるオフィスの収益性に関する分析

—賃料・空室率の時系列データに基づくエリアクラスタリングと

空室・入居日数の確率モデルによる空室率の推定

松原 周平 (京都大学)

市街地における巡回パトロール経路の最適化に関する研究

神山 直之 (京都大学)

16:00-16:10 Closing Session

Takeshi Koshizuka (University of Tsukuba)

◇ワークショップの討論内容

ワークショップでは3件の特別講演、6つのセッションが設けられた。それぞれについて報告する。

セッション1 筑波大学で屋台を設置したときの効果、眺望点、商店街活性化の提案について報告があり、それらについて、モデルの妥当性、有効性、実用性について討論を行った。

セッション2 水海道市のブラジル人集住、地方自治体のサービス、防災行動モデルについて発表があり、議論を行った。

セッション3 (招待講演2件) 輸送の問題、GISの開発の問題について英語で報告があり、モデルの妥当性、GISのアプリケーションを中心に議論を行った。

セッション4 (招待講演1件) ネットワーク上の分布を表現する方法について英語で報告があり、それについて議論した。

セッション5 パス計数法、コンサート会場問題、航空会社の航路問題について発表があり、モデルの解法、実用性について議論を行った。

セッション6 リニア新幹線の需要予測、商品普及のモデル、地域ブランドに関する発表があり、モデルの妥当性、結果の有用性について議論を行った。

セッション7 施設配置の分析、将来人口を加味した最適配置問題、避難経路の探索問題について発表があり、モデルの妥当性を主に議論を行った。

セッション8 最適停止問題、シフトスケジューリングの応用、オフィスビルの収益性、パトロール経路の最適化について発表があり、実用性について議論を行った。

◇研究成果発表

今年度も研究成果の公刊を各自の責任において行うこととなった。